

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|---|-------------------------------------|------------|
| 1.アルファベット氏名 | H. N. | 非公開 |
| カナ又は漢字氏名 | 非公開 | |
| 2.出身国又は地域 | 中国 | |
| 3.学年 | 1年生 | |
| 4.学校名 | 非公開 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル |
| 6.所属研究科・学部等名 | 非公開 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>私のふるさとでは女性が30歳になったら、「早く結婚しなさい、早く子供を産みなさい」と言われます。そんな人生にはしたくないと思い、日本に来ました。日本ではそのような年齢差別は感じませんでした。</p> <p>だから、私はこれからもずっとこの環境で過ごしたいと思いました。ずっと日本にいらることができれば、自分に足りない能力をもっともっと伸ばせるのではないかと感じました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>日本で起業を考えており、日本留学の申請を主な業務とし、オンライン日本語教育を補助的に行う会社を設立したいと考えています。将来的には、グローバルな市場を視野に入れていきます。</p> <p>現在、日本市場での活動を始めており、今年は3名の学生の入学を達成しました。来年も同じく3名の入学を見込んでいます。</p> <p>将来的には、グローバル市場をターゲットにした事業展開を目指しており、他国への短期留学を通じて情報収集を行いたいと考えています。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>経営を主な学習内容とし、財務分析や英語などのコースを履修しています。初期のGPAは2.89です。学校には自習室や図書館があり、授業が終わった後は図書館に行って資料を調べたり、本を読んだりしています。</p> | | |

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験(日本人学生や地域のひととの交流など)と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

大学に入ったばかりの時に、グループワークの発表が全然できませんでした。

「このままではダメだ」と思って、会話力や発信力を高めるために、挑戦を始めました。

最近上智大学のザビエル杯を応募しました。

これは外国人留学生に向けてスピーチコンテストです。

結果はどうなるか、まだわかりません。できる限り、必死に最後まで頑張ります。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路(キャリア)へどのような影響を与えるか教えてください。

日本に留学に来てから、自分の動画を作成し、日本での留学生生活を更新するようになり、多くの人に関心を持ってもらうようになりました。中には、「自分も日本に留学したい」と質問してくる人もいたので、言語学校の申請を無料で手伝う仕事を始めました。

これは私自身の将来の仕事の計画において基盤を築くものであり、毎年夏休みに他の大学を訪れて動画を撮影し、海外にいる学生たちに日本の大学に関する情報を届けるつもりです。

将来的には、この仕事を続けていくことも考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

30歳で日本の大学を受験したことです。幼い頃から、女性は30歳になったら「早く結婚しなさい、早く子供を産みなさい」と言われていたため、そんな人生にはしたくないと思い、日本に来ました。日本ではそのような年齢差別は感じませんでした。だから、私はこれからもずっとこの環境で過ごしたいと思いました。ずっと日本に居ることができれば、自分に足りない能力をもっともっと伸ばせるのではないかと感じました。

受験勉強の1年間はまさに地獄のような生活で、毎日日本語学校、塾、アルバイトに追われ、何の楽しみもありませんでした。そのため、第一志望の大学から合格通知を受け取ったときには、嬉しさのあまり思わず涙が溢れました。自分の努力が本当に報(ほ)われたと感じました。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

私は28歳で日本に留学に来て、2年間の語学学校を卒業し、現在は大学1年生です。なぜ日本で大学を学んでいるのかというと、日本で起業をしたいからです。そのためには、自分の経験やリソース、資金を積み重ねるために多くの時間が必要です。また、日本の文化を学び、こちらの環境に溶け込むことも大切だと考えています。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1.アルファベット氏名 | SUHAN KIM |  |
| カナ又は漢字氏名 | 金 受漢 | |
| 2.出身国又は地域 | 大韓民国 忠清南道天安市 | |
| 3.学年 | 3年生 | |
| 4.学校名 | 神田外語大学 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル 外国人交流活動で中学校での講義 |
| 6.所属研究科・学部等名 | 外国語学部 国際コミュニケーション学科 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>高校生の頃、群馬県の田舎で3ヶ月を過ごし、マレーシアを経由しオーストラリアまで一人で旅したことがあります。それまでに故郷の韓国を離れたことのなかった私に異文化の経験は衝撃的なものでした。低い言語能力のため深いコミュニケーションは取れなかったものの、異なる文化的価値観を持った人と話を交わすことの楽しさは私の人生計画を変えるには十分でした。その旅をきっかけに他国で住み、他文化に溢れる生活をしたいという夢を持ち、日本留学試験（EJU）やTOEIC・TOEFL勉強に挑みました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>当初の留学の目的は、単に日本での生活を満喫しながら無事に学位を習得することでしたが、年次を重ねるたびに身近な目標が見えてきました。2年生になってからは奨学金を受給することに、3年生になった今はそれと同時に就職活動や外国人交流活動などの課外活動から所属しているゼミで論文執筆をすることまで、具体的な目標を持って頑張っています。また、わざわざ馴染みのない新しい環境に身を置き、苦勞を通して何かを学ぶことが留学の目的であるならば、私は毎日その目的を達成しているとも思います。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>国際コミュニケーションを専攻し主に英語を通じてコミュニケーションやさまざまな学問を学んでいます。本校の特徴は他の外語大学とは違ってマイノリティ言語にも対応し、さらにビジネス的教養も養うことができ、典型的ではないカリキュラムを組むことができます。また外語大学である分、多様な文化的背景を持った留学生やそれに興味を持って入ってきた日本人学生が大勢いるため、活発なディスカッションができる特徴が非常に学習意欲を刺激します。その刺激を受け2年連続奨学金を受けることができました。</p> | | |

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験(日本人学生や地域のひととの交流など)と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

私は母国で日本語を「勉強」していた時とは違って今は日本語を「活用」している方になったと言えます。新しい語彙や表現に出会ったとき、それを一つずつ母国語に入れ替えないと理解できないレベルを超えると、その単語や慣用句をそのまま理解したような経験をします。その言語に対する経験が増えるとともに理解のための破片的知識が蓄積され、その知識間の有機的相互作用により情報の空白が埋まるからです。このような講義を千葉市外国人留学生交流員として地域の中学生にしたことがあります。私の留学と言語学習を振り替えてみるととても有益な機会となりました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路(キャリア)へどのような影響を与えるか教えてください。

日本で留学しながら学んだ日本人の特徴はプロジェクトへの取り組み方が体系的でデリケートな面があるということです。円滑に仕事を進めるため周りにアンテナを貼り配慮する形で周りや引っぱり合いながらプロジェクトを完遂するところが印象的でした。「早く早く文化」が特徴とされる韓国では軽視されがち要素です。大学卒業後日本で就職しこのような日本人の働き方においての志を学ぶことで今後のキャリアにも非常に役に立つと思います。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本で就職活動を始めたとき最初驚いたのは、大学3年生の時から就職活動を始めるということと、大半の学生は卒業も前の4年生の時もう内定を決めておくことに驚きました。韓国では一般的に卒業後1年から2年間就職活動を行うためキャリアの空白ができることを心配する学生が多いです。学生時代に就職活動からくるストレスにまで対応しなければならない面もありますが、キャリアの連続性が保てるところは良いところだと考えます。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

健全で長く続く良質な恋愛ができなかった私が日本に来ていい女性に出会いました。外国籍の恋人を作ることを目的として外国語を勉強している人が多いそうで、私もそうでした。留学はその夢を実現できる効果的機会でもあります。しかし使う言語も文化的価値観も違うことを気に留め、お互いを尊重することが大切です。このような違いを楽しむことができ気の合う人と出会えば、楽しいながらも寂しい孤独感を与える留學生活の心強い支えとなるでしょう。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|--|-------------------------------------|---|
| 1.アルファベット氏名 | 非公開 |  |
| カナ又は漢字氏名 | 非公開 | |
| 2.出身国又は地域 | 中国（香港） | |
| 3.学年 | 4 | |
| 4.学校名 | 目白大学 | 写真 タイトル |
| 5.学種 | 大学学部 | |
| 6.所属研究科・学部等名 | 外国語学部日本語日本語教育学科 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>小さい頃からアニメやドラマなど、日本の文化に触れ、日本に憧れていました。もし機会があれば、必ず一回は日本で生活してみたいと思っていました。そして、辞書に頼らずに自分で日本語を理解できるようになりたいと思い、日本語を勉強すると、留学を決意しました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>2018年来日した時の目標は、なるべく早く日本語能力試験のN1を取得することでした。そして、自分の計画通りに、他の人よりも早く、半年間でN2を取得し、そして1年経った時にN1も取得しました。その次に立てた目標は、BJTビジネス日本語能力テストのJ1+でした。初めて受けた時はJ2しか取得できなかったのですが、3回目の挑戦でJ1+を取得することができました。そして今の目標は、2024年に初めて国家資格家された日本語教員試験です。今年（2024）の十一月に受ける予定で、2年前から準備しています。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>日本語教員になるための50項目について学んでいます。例えば、日本語教育史、第二言語習得、世界の諸言語、語用論、在日外国人教育、日本語教授法など。校内の設備は整っており、非常に便利です。成績は各学期大体GPA3.1~3.2前後でした。</p> | | |

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本語の教育実習で実際に都内の日本語学校に行き、教壇に立ち、日本語で外国人の生徒に日本語を教えることは自分にとって非常に挑戦的で貴重な体験でした。自分も外国人であるため日本で日本語を教えることに自信がなかったのですが、実習で外国人の生徒に「教え方がわかりやすかった。私たちのような学生でも理解できてすごい」と励まされ、自信ができました。今は日本の方の前でも、堂々と日本語を教える自信があります。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本に来た当初は日本語学校以外の進学を考えてはいなかったのですが、卒業後は更に日本語磨きたく思い、専門学校、そして今在籍している目白大学に編入しました。長年日本での留学を通し、日本で就職する際に求められる日本文化、日本語能力が身につきました。今後は、今まで培ってきた経験と知識を活かし、日本で就職し、永住権を目指していきたいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

一番異文化の衝撃を受けたのは就職です。日本の就職活動は非常に大変でした。大手企業では二、三回も面接するところと、相対敬語である日本社会の独自の文化が衝撃的でした。そして、留学生はビザの問題もあり、選択肢が狭まり、自分も含めて今まで出会った留学生も就職することに恐怖心を感じているのではないかと思います。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は楽しい思い出もあれば苦労することもあります。しかし、日本で巡り合った人や物事は一生かけがえのない思い出になるはずです。ぜひチャレンジしてみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|---|-------------------------------------|------------|
| 1.アルファベット氏名 | MA SHIBO | 非公開 |
| カナ又は漢字氏名 | 馬 世博 | |
| 2.出身国又は地域 | 中国 | |
| 3.学年 | 4 | |
| 4.学校名 | 日本国際学園大学 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル |
| 6.所属研究科・学部等名 | 経営情報学部 ビジネスデザイン学科 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>日本に留学することを選んだのは、最初は日本のアニメにとっても興味があり、日本の風景がとても良くて、空気がとても良くて、みんなとても礼儀正しいと思ったからです。だから、自分が高校を卒業した時に環境を変えて、もっと経験して、自分の視野を広げたいので、日本に留学することを選びました。日本に留学するのは、まず国内で基礎日本語を勉強することがとても重要だと思います。そして、簡単な料理を学びます。自分で生活しなければならないので、自炊も重要です。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>私が日本に来た目的は、日本語能力試験N2に合格し、そして大学に入学することです。そして、日本で仕事を見つけたいです。今まで、私は日本語能力試験に合格し、大学にも入学しました。仕事ならまだ頑張っています。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>学校の学習環境はとても良くて、先生たちはとても責任感があり、とても優しいです。学校の授業も非常に多様で、日本語授業、健康授業、英語授業、色彩授業などがあります。私の個人的な成績GPAは3.2くらいです。宿題も提出済みで、欠席したこともほとんどありません。先生は授業も非常に明確に説明し、学校の授業スケジュールも非常に合理的で、普段は課外活動、学園祭などもあります。</p> | | |
| <p>(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。</p> <p>日本語を学ぶことで、私に一つのスキルが増えました。仕事の選択肢も少し増えました。同時に、私個人も鍛えられました。日本語を学ぶのは長期的なプロセスであり、それから私の性格は一つのことを長く続けられるようになりました。日本人と接</p> | | |

した。同時に、私個人も鍛えられました。日本語を学ぶのは長期的なプロセスであり、それから私の性格は一つのことを長く続けられるようになりました。日本人と接触しておしゃべりすることで、食事の前に「いただきます」と言うなど、より多様なテーブルマナーを学びました。同時に日本人の慎重さと真面目さも学びました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

留学を通して、日本の文化やビジネス習慣を深く理解し、グローバルな視野を獲得できます。これは、今後のキャリアにおいて、多国籍チームでのコミュニケーションや海外ビジネスの展開において役立ちます。日本語の能力が向上し、外国語を活用できる人材は、グローバル企業や国際機関で重宝されます。留学は新しい環境に適応し、独立した生活を送うこととなります。その過程で培われる独立性と適応力は、将来のキャリアにおいても重要な資質となります。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本の就職活動は通常3月に企業エントリーが始まり、6月から企業の選考が開始されます。短期決戦的な選考期間のため、準備不足の学生は内定獲得が難しくなります。在日本の就職活動では、自分がどの企業で活躍できるかを考える必要があります。これは自己分析と職業計画に関連しています。日本のインターンシップは採用選考に直結するものではありませんが、その後の就職活動に影響を与えます。具体的な業務イメージややりたいことが明確になることができます。日本の就職活動では個性的で目立つ人を排除する傾向がありますが、他の国では個性とクリエイティブネスが重視されます。海外の就職活動では、ポテンシャルよりも実力が重視され、即戦力かどうか採用の重要な基準となります。日本の終身雇用制度は海外で一般的ではありません。海外では転職が一般的で、実力主義が主流です。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本で留学することで、日本の学生やビジネスパーソンと交流する機会が増え、国際的なネットワークを築くことができます。このネットワークは、今後のキャリアで有益な資源となるでしょう。留学経験者は、一般企業、行政、国際機関、起業など、多岐にわたるキャリアを選択することができます。留学経験は、キャリア選択に多様な目線をもたらし、将来の可能性の幅を広げることができます。日本への留学は、あなたのキャリア観を変化させ、グローバルな視野や言語能力の向上、独立性と適応力の鍛え、ネットワークの拡大など、多岐にわたる影響を与える可能性があります。また、就職活動においても、留学経験は企業から高く評価されており、キャリア選択肢を広げてくれるでしょう。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|---|-------------------------------------|------------|
| 1.アルファベット氏名 | NGUYEN THI LOI | 非公開 |
| カナ又は漢字氏名 | | |
| 2.出身国又は地域 | ベトナム | |
| 3.学年 | 4 | |
| 4.学校名 | 新潟食料農業大学 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル |
| 6.所属研究科・学部等名 | 食料産業学部 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>日本に留学したいという気持ちが芽生えたのは、いくつかの興味からでした。特に、日本のバレーボールに対する情熱と、文化、技術・科学分野への強い関心が大きな動機となりました。留学に向けた準備は、主に言語の習得に焦点を当てていました。また、日本の文化やマナー、社会の仕組みなどについても事前に知識を深め、現地で困らないように準備しました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>留学の目標は日常会話をスムーズにこなせるようになるだけでなく、専門的な分野に関する会話や議論も理解できるようになりたかったです。会話力だけでなく、リスニングや読解力も同様に高めることと食品に関する研究を日本で行うことを目指しました。現時点では日本語をかなり流暢に話せるようになったと感じています。食品研究の分野でも、日本の最新の食品技術や、食文化に関する知識を実際に学びながら体験することができています。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>食品の製造や加工技術について学ぶ授業が多く、食品がどのように作られ、保存され、消費者に届けられるのかという工程全体を理解することができました。教授や講師陣は非常に熱心で、学生一人一人に対して親身に対応してくれました。授業内でわからないことがあれば、積極的に質問することができ、学びやすい環境が整っていました。課題やレポート提出にしっかりと取り組み、試験前には予習・復習を欠かさず行い、授業内容に対して前向きに取り組むことで理解が深まり、良い成績を収めることができました。</p> | | |

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験(日本人学生や地域の人との交流など)と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本の文化では、礼儀や季節の移り変わり、自然への感謝の気持ちが大切にされています。日本語は敬語や文字の使い分けが難しいですが、言葉を学ぶことで相手を尊重する気持ちが深まります。また、日本人学生や地域の人々との交流では、協調性や他者への配慮を学べます。日本の学生はグループで調和を大切にし、地域では文化や伝統を通じて強いつながりを感じます。さらに、異文化理解やコミュニケーションの大切さを学びました。日本での体験を通じて、自己主張よりも相手を尊重することが重要だと感じました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路(キャリア)へどのような影響を与えるか教えてください。

日本は世界的に影響のある国であり、日本で学ぶことで、国際的な視野や異文化理解を深めることができます。日本と他国の違いや共通点を理解することが、グローバルなビジネス環境や国際的なネットワークを築く上で強みになります。また、日本での生活は、初めての文化や環境に適応することで自己成長を促します。異文化での生活を通じて、柔軟性や問題解決能力、コミュニケーションスキルが磨かれ、これらはどの職業にも役立つスキルとなります。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本は文化や技術が融合した魅力的な国です。留学を通じて日本語や文化を学び、世界的に評価されている教育を受けることができます。最初は不安かもしれませんが、日々の生活で日本の社会や考え方に触れ、成長できる機会がたくさんあります。日本での経験は、あなたの人生やキャリアにとって貴重なものになるでしょう。ぜひ挑戦して、素晴らしい留學生活を楽しんでください!

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|---|-------------------------------------|------------|
| 1.アルファベット氏名 | LU YUXUAN | 非公開 |
| カナ又は漢字氏名 | リク ウケン | |
| 2.出身国又は地域 | 中国 | |
| 3.学年 | 1 | |
| 4.学校名 | 聖心女子大学 | 写真 タイトル |
| 5.学種 | 大学学部 | |
| 6.所属研究科・学部等名 | 現代教養学科 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>日本の文化が好きなので、高校2年生の時から日本語を学び始めました。卒業後、日本に留学しました。高校卒業後、南京理工大学の予科クラスで日本語を学びました。半年後に日本に渡り、1年間の言語学習を行いました。その間に2回の留学生試験と7月のN2試験を受験しました。最終的に聖心女子大学を選びました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>当時の目標は理想の大学院に進学することでした。学部を卒業した後、さらに上のレベルの大学院を目指して努力し、卒業後は日本で数年働いて経験を積むことを希望していました。その後、中国で仕事を見つけられれば、帰国して両親や友人のそばに留まるつもりです。現在のところ、その目標にはまだ遠く、達成度は10%にも満たない状況です。この目標を達成するには、さらに7~10年の時間が必要かもしれません。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>現在、学校の1年生のカリキュラムはとても楽で、1年目は基礎科目が中心のため、専門課程にはまだ入っていません。現在は日本語、英語、キリスト教、日本事情、体育といった必修科目を学んでおり、残りの時間で自由に選択科目を取ることができます。全体的に、1年生の生活はとても楽しく過ごしています。</p> <p>学習環境も非常に良く、学校には1年生専用のセンターや自習室があります。女子校なので、同級生との関係も非常に良好です。授業中はとても静かで、喧嘩やトラブルもありません。</p> <p>現在の成績にはあまり満足していませんが、今後は授業にもっと力を入れて、良いGPAを目指したいと思っています。</p> | | |

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本の文化に触れる中で、特に地域の祭りに参加したことが印象深いです。地元の人々と交流し、日本の伝統や価値観を学びました。また、日本人学生とのグループ活動では、コミュニケーション能力が向上し、異文化理解が深まりました。言語の壁を乗り越えることで、自信が付き、より多様な視点を持てるようになったと感じています。これらの経験を通じて、自分自身の成長を実感しています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私のキャリアに大きな影響を与えていると考えています。まず、日本語を習得することで、国際的なビジネスや文化交流の場での競争力が高まります。日本は世界有数の経済大国であり、そこでの学びや経験は、将来の就職活動において強みとなるでしょう。

また、日本の文化や価値観を理解することで、多様な視点を持つことができ、異なるバックグラウンドを持つ人々との円滑なコミュニケーションが可能になります。これにより、国際的なプロジェクトやチームでの活動にも適応しやすくなります。

さらに、日本での生活や学びを通じて、自立心や柔軟性が養われ、問題解決能力も向上しました。これらのスキルは、将来のキャリアにおいて非常に重要であり、グローバルな環境での成功に繋がると信じています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

現地の人々との交流や、新しい環境での生活は、あなたの視野を広げ、自分自身を成長させる素晴らしい機会です。失敗や困難もあるでしょうが、それも全て学びの一部です。多くの挑戦を受け入れ、自分を信じて前進してください。あなたの留学生活が素晴らしいものになりますように！

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|--|-------------------------------------|------------|
| 1.アルファベット氏名 | WANG RUIJIA | 非公開 |
| カナ又は漢字氏名 | 王 睿佳 | |
| 2.出身国又は地域 | 中国 | |
| 3.学年 | 1 | |
| 4.学校名 | 東京歯科大学 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル |
| 6.所属研究科・学部等名 | 歯学部歯学科 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>多くの留学生と同じように、日本のアニメが好きで日本語を勉強し始めました。しかし、日本の文化より日本の歯科医療はより一層に先進な技術を持っています。そこで自分の志望校の歯学部合格のために一年間塾を通いました。その一年で英語の資格を取得し、受験教科の成績も伸びることができました。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>歯学の知識を学び、将来再生医療の分野の研究をしたいと思っています。学校で専門用語の英語を学んで将来論文を見ることにも役に立つになると思います。歯周組織や歯の組織も習い、将来歯科医として治療する部分のイメージも作りました。そして、消化管の流れや機能を知ることによって嚥下の後の仕組みも習得できました。</p> | | |
| <p>(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。</p> <p>先進な学習環境を備えていて、多様な臨床実習に参加することもできました。学校では専門知識だけではなく、教養教科も勉強することができました。将来歯科医師として勉強するだけではなく、より優れている人のための勉強でもあります。</p> | | |
| <p>(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。</p> <p>日本語表現の授業で、日本人学生とディベートをすることでリスニング能力だけではなくスピーキング能力も向上できました。敬語の用法もより正確の用法を学びました。リスニングの授業で日本文化を聞き取ることで日本文化にもより一層知ることができました。</p> | | |

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本で留学することで、私はより広い世界を見ることができました。ここでの経験で、私は自分の将来への道を明確になりました。歯科医師として最善の治療を提供できるように勉強し続けたいと考えます。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

目の前にある苦境に足を引っ張られずに、美しい未来に向かいましょう！

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|--|-------------------------------------|---|
| 1. アルファベット氏名 | CHAN HOYU |  |
| カナ又は漢字氏名 | 陳昊孺 | |
| 2. 出身国又は地域 | 香港 | |
| 3. 学年 | 1 | |
| 4. 学校名 | 文化学園大学 | |
| 5. 学種 | 大学学部 | 写真 タイトル 帰り道 |
| 6. 所属研究科・学部等名 | 服装学部ファッションクリエイション学科 | |
| 7. 学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |
| <p>(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。</p> <p>私が日本へ留学しようと思ったきっかけは、日本の文化や言葉にとっても興味があったからです。高校生のときに、アニメや音楽を通じて日本語に触れて、とても魅力を感じ、日本の技術や研究のレベルが高いと聞いて、ファッションや芸術について学びたいと思うようになりました。日本に留学するには、日本語ができた方が良いと思い、早めに日本語を勉強し始めました。私は会話ができるようになることを目標に、You Tubeや語学アプリを使って独学で勉強をしました。留学する前は、日本で友達ができるか、授業についていけるかなど、不安な気持ちもありましたが、日本に留学できるという喜びで胸がいっぱいでした。</p> | | |
| <p>(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。</p> <p>日本での留学の目標は、2つありました。それは、日本語を上手に話せるようになることと、日本の大学に進学することです。日本での生活や勉強をするためには、日本語を身につけることが必要です。授業や友達との会話を通じて、日本語がもっと上手になりたいと思っていました。実際に、たくさん日本語を勉強して、日常会話や大学の授業はほとんど困らず参加できていますが、日本語能力の向上を目指して、これからも勉強を続けていきます。</p> <p>もうひとつは、日本の大学でファッションを学ぶことでした。入学するために、日本語の試験や面接の対策などを頑張りました。そして、無事に志望していた大学に合格し、日本での大学生活を始めることができたので、この目標は達成できたと思います。</p> | | |

(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。

大学では服作りやデザインなどについての知識と技術を学んでいます。作図やアイデアを考える授業、縫製の授業を受けながら、実際に服を作る方法を学び、服の歴史や文化についても勉強しています。また、授業の時間以外でも課題をする場所があり、課題製作に集中できる環境があります。4年生では、ファッションショーを行い、自分たちの作った作品を発表することができます。成績についてはデザインや縫製の実習では、自分のアイデアがどれだけうまく形になったか、技術が正確か、そして作品がどれだけ完成しているかがとても重要であり、服の歴史を学ぶ授業では、テストやレポートを提出することで成績が決まります。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本の文化で強く印象に残ったことは、礼儀と心遣いです。挨拶やお礼を言うときの丁寧さや、相手に対する心遣いがとても温かく感じました。また、日本語については、授業や日常生活で使ううちに、だんだん言葉や表現が増えて、会話も少しずつスムーズになってきました。これらの経験を通して、異文化を理解する力が少しずつ身についてきたと感じています。

日本の文化やマナーを学ぶことで、相手を思いやる気持ちが大切だと感じ、自分も他の人に優しく接するようになりました。また、自分から積極的に行動することで、新しい出会いや経験が広がり、自分の成長につながるようになりました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

大学卒業後は、大学で学んだことを活かして日本のアパレル会社で働きたいと思っています。そのため、現在日本で学んでいるファッションについての知識と技術がとても役に立つと思います。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

ありません。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学を考えている皆さん、とても楽しい経験が待っていますよ。最初は言葉や文化が違うので戸惑うかもしれませんが、それも留学のおもしろさだと思います。

日本への留学は、新しい言葉や文化、新しいことを学ぶチャンスです。きっと自分の視野が広がり、考え方も変わります。留学生活を楽しんで、いろいろなことに挑戦してみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

| | | |
|--------------|-------------------------------------|---|
| 1.アルファベット氏名 | JEON SEONGHYEON |  |
| カナ又は漢字氏名 | チョンソンヒョン / 全成珉 | |
| 2.出身国又は地域 | 大韓民国 | |
| 3.学年 | 1 | |
| 4.学校名 | 情報経営イノベーション専門職大学 | |
| 5.学種 | 大学学部 | 写真 タイトル 留学生交流会での茶道体験 |
| 6.所属研究科・学部等名 | 情報経営イノベーション学部 | |
| 7.学習奨励費受給期間 | 開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月 | |

(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。

初めて日本に興味を持ったのは高校の修学旅行でした。初めての海外旅行で関西地域に行きました。日本の伝統的な部分と都市的な部分がよく調和しているのを見て美しいと思いました。それだけでなく、地域の商品をよく理解し、それを地域の特産物や観光商品にすることが本当にすごいと思いました。また、50~60代の方がアルバイトや食堂などいろいろな分野でまだ働いていらっしゃるのを見て、高齢化政策についてよくできているという点も学びになりました。

日本留学に興味を持ったもう一つの理由は、日本の観光事業は国家経済の重要な軸に位置しており、日本は多様な文化的、歴史的、自然的要素で世界各国から観光客を引き付けているからです。特に、日本はアジアだけでなくヨーロッパ、北米などでも多くの訪問客を誘致しており、いくつかの主要要素が観光産業の成功を牽引しています。このように、外国人の流入が多いという長所を活用していろんな文化を学び、社会的問題を把握しやすいという点で、日本での留学はいろんな観点で私に役に立つと思いました。

以上の理由から、私は日本留学のためにいろいろな準備を始めました。まず、一番大切に思ったのは日本語力でした。海外に行くために一番必要な能力はその国の言語能力だと思います。そのため、一番力を入れた所が日本語の勉強でした。次に、関心のある分野について調べ、それを学べる学校を探しました。その後、学校説明会や入学試験説明会などを聞きながら日本留学の準備を進めました。

(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。

現在の目標は大きく二つあります。

一つ目は学校で学んだことを基に起業をすることです。現在は、まだ1年生で学んでいる段階ですが、4年生まで熱心に学び起業まで継続していきたいと思っています。日本

各地の隠された名所たちとまだ有名になっていない地元の人しか分からない場所がたくさんあるため、それらを観光商品化し地域経済を生かせるような観光事業をしたいと考えています。さらにグローバルに事業を拡大していきたいと考えています。二つ目は友達をたくさん作ることです。現在、大学で行われている留学生交流会などの場で色々な国の人々と疎通しながら関係を形成しています。色々な国から留学に来る日本の特性上、他の国の友達と話す機会が多く、その分、他の国の社会的な雰囲気や興味を持っていることをお互いに話して共有ができます。そのように、色々な国の人々と関係を結んで人脈を広げていくことが私の日本留学での二つ目の目標です。現在、このような目標を達成するために、大学内のサークル活動と私がアルバイトをしているスカイツリーで色々な国の人々と接しながら活動を継続しています。

(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。

私が通っている情報経営イノベーション専門職大学では、ICT、ビジネス、グローバルコミュニケーションの3つを統合的に学ぶことができます。1年生は入門で3つの分野をまんべんなく学び、学年が上がるにつれて選択科目が増え、本人がさらに研究したい分野を選択して学ぶことができるという点で良いと思います。

その中でも私が興味を持っている分野は、ICT分野です。電子回路やプログラミングの授業、web開発など色々な分野で知識を学ぶことができ、ビジネスや経営についても学ぶため、起業の知識も身につくと思います。実務経験が豊富な教員の方々が授業を担当しているので、実践で必要な技術や知識などを学べる点も良かったです。授業方式も難しくなく、グループワークが多いので、周りの人に助けてもらえる機会が多いです。そのおかげで、私は1年生の前期には、11科目のうち8科目でS評価を受けることができました。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本の文化といえば食べ物やアニメなどいろいろありますが、その中でも私はおもてなしというものについて興味深く思いました。日本の礼儀と格式は世界中でも高いレベルです。それを直接体験するために、大学での留学生交流会に参加し、茶道体験に行ってきました。茶道文化ができるようになったきっかけと日本の歴史とも関係があって私にとって大きな意味がある体験でした。この体験を通じて、日本の茶道ができた背景、現代社会に続いてどのように変化したのかなど、日本の文化とつながる背景などを学ぶことができました。

また、韓国だけでなくミャンマー出身の留学生と様々な母国についての話しをしながら、他国の文化についてたくさん学んでいく時間になりました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本は、世界的に高い教育水準を誇る国の一つで、複数の大学がグローバルランキングで上位に位置しています。特に工学、技術、自然科学分野で日本は特に強勢を見せていて、この分野に関心のある私には大きい影響を及ぼすと思います。また、日本で留学する経験を通じて、日本の文化、ビジネス慣習を理解することは、アジア及びグローバル市場で重要な資産になり得るだけでなく、個人のグローバル力を強化するのに寄与すると思います。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

本人がやりたいことを一つするためには、やりたくないことを99個しなければならないという話があります。日本留学の準備をしながら色々な問題にぶつかり、困難を経験しながら諦めようかと思いました。JLPTとEJUを同時に準備しながら、学業に対する負担感と入学のための様々な書類の準備に負われ、疲労もありましたが、現在私は日本での生活に200%満足しています。日本での留学は、その本人にとって準備過程でも留学中でも学ぶ点が多いと思います。最初は挫折して諦めたくなくなるかも知れませんが、そのあとは大変だった準備過程も忘れるほど楽しい生活ができると思います。日本留学の準備をしている、あるいは考えている皆さんを心から応援します。